



会津若松市



みなかみ町



さいたま市

議題（１）

東日本でつなぐSDGsについて
（会津若松市・みなかみ町・さいたま市）

経緯①SDGs宣言(令和2年度)



東日本でつなぐSDGs宣言

- SDGsについては、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指し、誰一人取り残さないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要であり、日本国内でも多くの取組が行われてきている。
- その取組の一つである内閣府のSDGs未来都市には、連携都市の中で多くの自治体を選定されており、東日本においても、SDGsの推進が大変活発に行われてきている。これらの流れを更に加速させるためにも、令和2年10月27日(火)に第6回 東日本連携・創生フォーラムを開催し、さいたま市・みなかみ町が発起人となり、「東日本でつなぐSDGs」宣言を行った。
- 参加都市は東日本連携に取り組んでいる16都市となる。

SDGs宣言内容

- 👍 2030 アジェンダの達成に向け、ALL東日本として、SDGsの推進に取り組みます。
- 👍 SDGsに係る普及・啓発活動を行い、多様なステークホルダーと連携を行います。
- 👍 東日本各都市について、相互の取組を共有し、地域課題解決を図るとともに、
東日本地域のヒト・モノ・情報の交流・発信を行い、地域の活性化を図ります。

経緯②宣言後の取組(令和2年度)



サッカー連携によるフードドライブ

◆大宮アルディージャ・ツエーゲン金沢・金沢市・さいたま市の4者が連携したフードドライブ

- 大宮アルディージャ対ツエーゲン金沢戦において、大宮アルディージャ・さいたま市子ども食堂ネットワークが主催で「余った食品はみんなでシェア! フードドライブコーナー!!」と称し、特設ブースを出展し、各家庭にある使い切れない余剰食品を回収し、市内の各子ども食堂へ寄付。4者が連携して、事業の周知を実施し、当日はたくさんの食品が集まった。

多くの金沢サポーターがフードドライブに参加



普及・啓発ポスターの作成

◆普及啓発ポスターの作成

- 宣言都市全てに配架し、合同でSDGsの普及啓発を行った。



経緯②宣言後の取組(令和3年度)



SDGs担当者会議

<実施日時> 令和3年8月16日(月)オンライン会議

<参加都市> 福島市、会津若松市、郡山市、那須塩原市、みなかみ町、さいたま市、魚沼市、南魚沼市、金沢市、上田市、福井市、(オブザーバ:内閣府)

- SDGs宣言に賛同している11自治体が参加。
- ステークホルダーとの連携、普及啓発方法など各自治体の課題などを相互に共有し、優良事例などを紹介することにより、東日本全体でSDGsを推進していくことを確認。
- 内閣府もオブザーバーとして参加し、今後SDGs未来都市への申請を検討している自治体への助言等もいただいた。



担当者の声

- 各自治体間のSDGsの取組を共有する今回のような会議が重要。
- 庁内外への啓発、SDGs施策の推進方法など、先進自治体から研修講師派遣をお願いしたい。
- 先進自治体に伺って、SDGsに関する話や活動を体験し、それを地元を持ち帰って実施できる仕組みを構築し、それを東日本連携の中でリレーすることで交流を深めることができればよい。
- 先進自治体の生の声が聴ける研修は非常に重要。
- 色々な情報収集にこのような会議は重要である。会議に限らず、気軽に情報交換できる場があればいい。



会議後、SDGs未来都市である郡山市から会津若松市に先進事例の取組を共有することを目的に講師が派遣されるなど、自治体間の交流も始まっている。

経緯③アクションプラン案の検討(令和3年度)



×



令和3年度東日本連携フォーラム

〈実施日時〉 令和3年10月27日(水)オンライン会議

〈参加都市〉 函館市、盛岡市、山形市、福島市、会津若松市、みなかみ町、新潟市、三条市、魚沼市、南魚沼市、氷見市、南砺市、上田市、福井市、さいたま市（首長参加:6都市）

◆会津若松市提案

提案背景：観光分野においても、「SDGsへの貢献」や「持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進」など社会課題に対応した施策が一層求められる時代となり、社会課題への対応が観光の新たな成長機会、ビジネス創出のチャンスにもなると思慮。

提案内容：東日本連携各都市がSDGsへの貢献を意識した次世代型観光の取組及びアクションプランづくりを進めることにより、国内外からの新たな観光誘客を図ることを目的とする。

アクションプランづくりに向けた提案内容(案)(R3-4年度)

- ①各都市のユニークな観光分野のSDGs（特に脱炭素化）の取組事例を収集
脱炭素化に向けた「観光×公共交通」の取組
旅館・ホテル・観光関連施設における再生可能エネルギー利活用の取組
旅館・ホテル等のフードロス削減の取組、食育観光、植林を通じた観光の取組
- ②視察会、WEB発表会、民間事業者等の交流会の実施
- ③東日本WEBサイト等への取組事例の先行掲載・PR
- ④各都市の取組事例を組み合わせた旅行商品化の検討
- ⑤ALL東日本として取り組むアクションプランづくりを実施

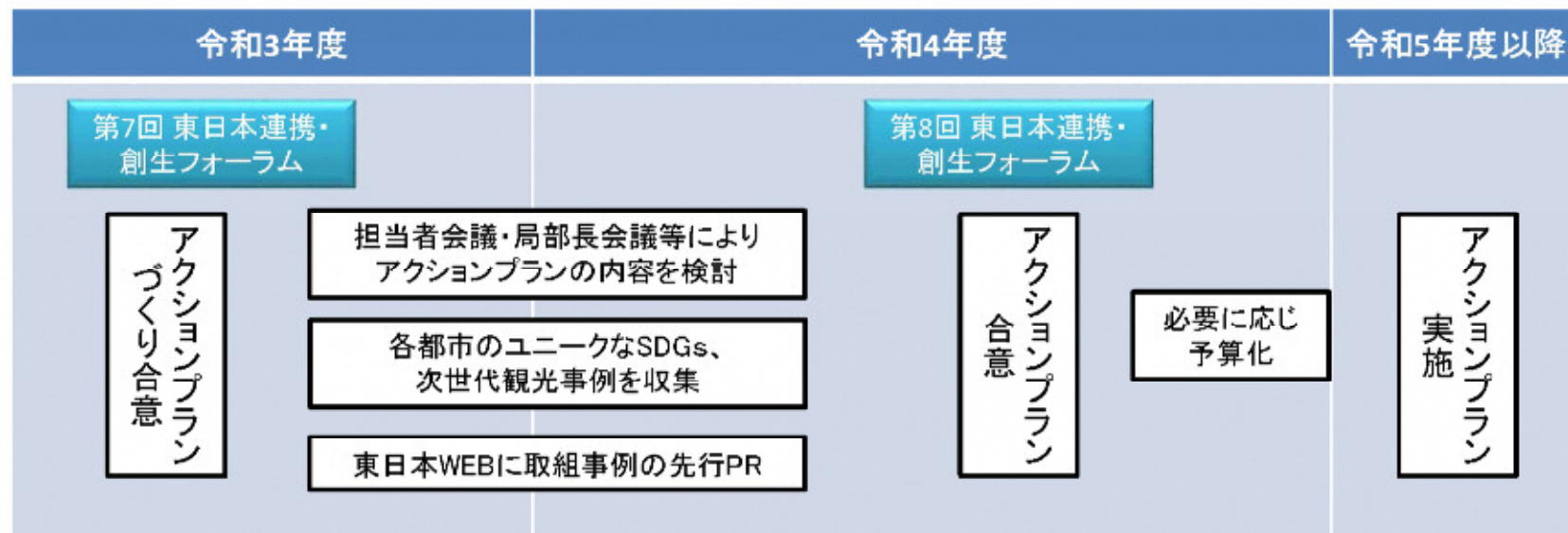
経緯③アクションプラン案の検討(令和3年度)



会津若松市提案内容案(R5年度以降)

ALL東日本として取組む次世代型観光アクションプランの実施

- SDGs 視察ツアー、モニターツアー
- SDGs 修学旅行、林間学校
- 新たな個人型旅行商品などのビジネスモデル化
- SDGs への貢献を実感できる東日本シリーズツアー



👉 広域連携の実現を目指し、今後これらの内容を具体化していく必要がある。



SDGsアクションプラン案



3つの「つなぐ」で実効性のある連携に

アクション① 連携都市間の取組を「つなぐ」

- 各都市で行われている取組事例を共有し、横展開することで、連携都市同士のSDGsを「つなぐ」

アクション② 各地の次世代観光に「つなぐ」

- 様々な取組を複数の市町村で行い、東日本WEBサイト等で共同発信することにより、各地の次世代型観光に「つなぐ」

アクション③ 連携都市間でSDGsの取組を行い、地方創生へ「つなぐ」

- 観光、環境など関連する取組、親和性の高いSDGsの取組を東日本連携都市間で行い、地方創生へ「つなぐ」

深度
化
レ
ベル



SDGsアクションプラン案



アクション① 連携都市間の取組を「つなぐ」

各都市で行われている取組事例を共有し、
横展開することで、連携都市同士のSDGsを「つなぐ」

具体的なアクション案

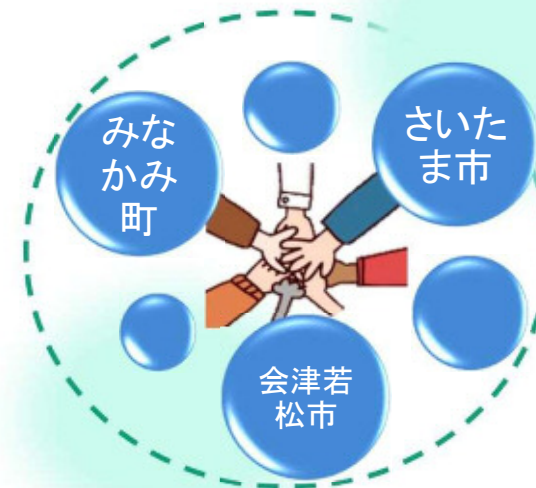
- 担当者会議等で課題を共有
- WEB発表会の開催
- 連携都市間でイベント等を共有
- 視察会の開催



連携都市間でSDGsに係るプラットフォームを設立

→ メーリングリストなどで互いに共有する。

連携都市間で共有





SDGsアクションプラン案



アクション② 各地の次世代観光に「つなぐ」

様々な取組を複数の市町村で行い、東日本WEBサイト等で共同発信することにより各地の次世代型観光に「つなぐ」

具体的なアクション案

- 取組事例を東日本webサイト等で発信し、観光客を誘致
- 民間事業者等の交流会の実施
- まるまるひがしにほんの有効活用
 - ex ○○フェアと称し、複数の自治体で合同出展など
- 北陸エリアなどブロック毎に推進していくことも有効
- 単一市町村のイベントにブースを合同出展するなど相乗効果を高める取組を展開

みなかみ町とさいたま市
合同ブース出展



まるまるひがしにほんの様子



単一のPRから複数の市町村連携へつなぐ

令和4年度取組内容(令和4年度)



市町村連携の参考事例

「あいづサマースカイフェス(サマスカ)2022」

〈実施日時〉 令和4年7月30日(土)-令和4年7月31日(日)

〈主催〉 ※極上の会津プロジェクト協議会

〈事務局〉 会津若松市観光商工部観光課



※協議会は、会津若松市、喜多方市、南会津町、下郷町、只見町、北塩原村、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、西会津町、会津美里町、三島町、金山昭和村、檜枝岐村という会津17市町村に加え、民間団体(観光協会等)、宿泊施設組合、交通事業者の47団体を含む64団体で構成。

◆事業趣旨/基本方針

- 会津地域の食や物産、アクティビティを一堂に集めたプロモーションイベントを開催し、イベント終了後の夏・秋の再来訪につなげる。
- 持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)の推進に向け、間伐材や紙製容器の使用、会場の一部電力に再生可能エネルギーを活用、複数サイズでのメニュー提供など、環境問題を考える機会を提供する。
- さいたま市などもSDGs・観光ブース等を出展し、連携都市間で合同PRを行った。



令和4年度取組内容(令和4年度)



×



SDGsアクションプラン案

東日本連携 × eスポーツ

期日: 令和4年12月11日(日)

会場: まるまるひがしにほん (1階・物産販売、観光PR 2階・大会会場)

内容

①種目: eFootball

東日本連携都市にゆかりのあるプロeスポーツ選手、Jリーグ選手(OB含む)のコラボ

②パネルディスカッション・セミナー

産学官連携による開催

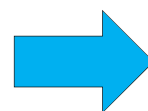
☆大会電力の一部を電気自動車から給電するなど、SDGsの取組みを実施

※詳細は後日発表します



◆令和5年度以降

- ・東日本地域の認知度向上
- ・東日本地域の産業の成長・発展
- ・ICT人材の育成
- ・雇用機会の創出



地方創生
SDGsへの貢献



SDGsアクションプラン案



アクション③ 連携都市間でSDGsの取組を行い、 地方創生へ「つなぐ」

観光、環境など関連する取組、親和性の高いSDGsの取組を東日本連携都市間で行い、地方創生へ「つなぐ」

具体的なアクション案

- 各都市の地域脱炭素の取組の共有、発信
- 東日本連携全体での脱炭素ドミノの促進
- 再生可能エネルギーの利活用等を通じた交流、地域活性化、市民、企業への啓発活動 等



東日本連携ネットワークを通じた 脱炭素(グリーン)×地方創生
→ローカルSDGsの実現



令和4年度取組内容(令和4年度)



アクションプランの効果

アクションプラン① インプット

- ・連携都市間の取組の土台作り



アクションプラン② アウトプット

- ・複数自治体での取組・発信



アクションプラン③ 広域連携の取組継続へ

- ・東日本連携都市全域での持続可能な取組へ

- 今までは「〇〇市ー〇〇市」のような単一連携が多かったが、地域課題の真の解決には単一自治体だけでは解決できない問題が多い



- 連携各都市のユニークで様々な取組を、東日本連携ならではの顔の見える関係性により実質的・多面的に共有することで、各都市の実情に合ったSDGsの取組として横展開することにより、効果の高い地域SDGsへの発展を目指す。
- 複数の自治体での取組を行うとともに東日本WEBサイト等や、イベント等の協働PRのように広域連携のメリットを生かす取組や、情報の発信を行う。



- 環境、デジタル分野など東日本連携(広域連携)による特徴を生かした取組を行うことにより、将来を担う子ども達や、ミレニアル世代など持続可能な都市を引き継いでいく。
- ひいては、SDGsの取組を通じた次世代観光の実現につながる。

今後のスケジュール



スケジュール

